

ハンガリー政府観光局 ニュース 2011年6月22日 No209

- 空港アクセスご注意地下鉄 M3 部分運休
- ブダペストに新たなゴルフコース開業
- 【コラム】ハンガリーアニメーション探訪

### 空港アクセスご注意地下鉄 M3 部分運休

ブダペスト地下鉄3号線(M3)は、工事のため6月21日から8月24日までの予定で、Határ út 駅(ハタル通り)と Kőbánya-Kispest 駅(ケーバーニャ・キシュペシュト)の1区間を運休し、バス代替輸送を行っています。

一方、ブダペスト・フェレンツ・リスト国際空港からの空港バス200E系統は、終点を Kőbánya - Kispest 駅から Határ út 駅へ変更し、同駅で地下鉄 M3 との乗換えが出来るように配慮されています。



地下鉄 M3 運休中の空港アクセス概念図

### ブダペストに新たなゴルフコース開業

ブダ側北部のオーブダ(Óbuda)に今月新たなゴルフコース、Academy Golf Club が完成し正式開業しました。

このコースは9ホール、パー30、距離1,602mと小ぶりながら都心から(くさり橋から約5km)至近の好立地に開業し、練習場、レストラン、カフェ、400名収容の多目的会議室を併設しています。<http://www.academygolfclub.hu/> (英語)



## 【コラム】ハンガリーアニメーション探訪

ハンガリー文化センター コラムからの転載:

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/hungary/index.html>

※大阪大学外国語学部ハンガリー語学科を卒業後、アニメーター、イラストレーターとして日本とハンガリーで活動している、なぼちかはるこさんよりご寄稿いただきました。

### 『ハンガリアンフォークテイルズ』の魅力

朝 8:30。肩に食い込むリュックを揺すって歩くこと 5 分。ようやく西駅の前に到着した。ガラス張りのファサードの下、緑の正門を越えて 12 番ホームを目指す。そこには古びた藍色の列車が停車している。車輪の脇から蒸気を抜き、パンタグラフを張って旅客を待っていた。ドキドキ……これから夢が叶うと思うと、胸が高鳴る。わたしは乗降口に足を掛け、身を持ち上げるようにして列車に乗り込んだ。握りしめてきた「ケチケメート」行きの切符は、汗ですっかり柔らかくなっていた。

一週間前、1 本の電話から旅ははじまっていた。ハンガリーでも有名なアニメーションスタジオ、ケチケメートフィルム。そこへ意を決して、インタビュー取材を申し出たのである。留学して早 1 ヶ月、そろそろ秋休みを迎えようという頃だった。



ケチケメートフィルムは、ハンガリーで 30 年以上愛され続けている『ハンガリアンフォークテイルズ (Magyar Népmesék)』を制作しているスタジオだ。そもそも、卒論のテーマをアニメーションに絞ったのも、この民話に生命を吹き込んだような作品に魅了されたからだった。その魅力は、なんといっても独特の世界観。モチーフひとつひとつをカラフルな色系で編み込んだような背景画、綿密に装飾が施され、個性際立つキャラクターたち。言葉がわからなくても、感性に訴えかけてくるものがある。

午前 9:45。列車がツェグレード駅を通過した。暖房が故障しているのか、コンパートメントの中がむっとするくらい暑くなってきていた。わたしはアルミ製の窓枠に手をかけ、ぐいっと引き下ろした。いきなり冷たい外気が流れ込んでくる。ふと向かい席の老婦人と目が合い、慌てて窓を閉めようとすると、婦人は優しく微笑んで「いいのよ」と首を横に振った。そして、また手元に視線を落とし、黙々と黄色い布地に赤い花の刺繍を縫いはじめるのだった。黄色に、赤い刺繍……ふいに『ハンガリアンフォークテイルズ』のタイトルシーンを思い出した。

ギターと小笛が奏でる軽快なリズムが、黄色く染まった画面に流れる。続いて、1 羽の赤

い小鳥が舞い降りてきた。小鳥はおしゃべりでもはじめたように口をパクパクさせると、くちばしの先から赤いつるが生えはじめる。つるは豊かな葉っぱとたわわに花をこしらえて、くねくねと上へ伸び続ける。やがて他の小鳥たちも集まって、3羽が織り成す「話の蔦草」は次々に花を咲かせる。画面に浮かび上がる花鳥文様は、さながらハンガリー刺繍を彷彿とさせる。今日まで色褪せることなく、口伝えに受け継がれてきた民話の数々。冒頭シーンは物語が伝えられていく瞬間を、アニメーションという新たな口承術を使って見事に表現しているのだった。

10分ほどして窓を閉めた。老婦人は縫いたびれてしまったのか、列車に揺られてうたた寝をしている。車内はガタンゴトンの子守歌が流れ、窓から差し込む淡い光の中で小さな綿ぼこりが泳いでいた。ひょっとしたら「妖精」かもしれない。まるで意志を持っているかのように、生き生きと宙を舞うのだった。



『ハンガリアンフォークテイルズ』には、不思議な魔力を持った生きものがよく登場する。一度くっいたら離れられない黄金の仔羊、雄鶏にまたがるハリネズミ、バラに変身するハト、人や街を次々と呑み込む胃袋の妖怪……こういったキャラクターは、民話に含まれるメッセージに沿って誇張されている。例えば、日本でも鬼は悪党として描かれ、ハンガリーでも真っ赤な悪魔は悪の化身として現れる。すべて一概には言えないが、キャラクターをシンボル化することで、聞き手に内容を印象づけることが民話の役割なのかもしれない。とすると、『ハンガリアンフォークテイルズ』は「語る」だけでなく、鮮やかな色彩と躍動感のある動きで「視覚に訴える」という新しい手法でハンガリーの原点を伝えようとしているように感じるのである。

Kecskemét, Kecskemét... ”

午前 10:10。ホームのアナウンスに気づいて、慌ててリュックを背負う。老婦人も立ち上がり、棚の上に預けた風呂敷袋に手をかけた。だが、上手く取れない。緊張しながらも思い切って「手伝いましょう」と声を掛けた。背が低いわたしはジタバタして、やっとのことで風呂敷をつかんで座席に下ろした。婦人は「ありがとう」という感謝のポーズをとると、聞き慣れないハンガリーの言葉を残していった。

“Jót tetted, jót vár.”

後に知ったのだが、これは「よいことをしたら、よいことが起こる」という意味だそうだ。なんたる偶然！まさに『ハンガリアンフォークテイルズ』に出てくるようなセリフである……

西駅を発って1時間半。ついにケチケメートの地に足を踏み下ろした！さて、取材旅行はどうなることやら……だが、この時のわたしはまだ知らない。スタジオで本当によい出会いが待っていることを。(2011/5/26, なぼちかはるこ／イラストレーター)



\* なぼちかはるこのホームページも覗いてみてくださいね！ <http://napochka.com>

\* 2011年6月15日～19日 ケチケメートアニメーションフィルムフェスティバルが開催されます！詳しくは [www.kaff.hu](http://www.kaff.hu) まで。